

## 第14回 JR 貨物連合定期大会開催



挨拶する大杉会長

9月2日、広島市内で開催され、2023年末手当交渉、2024春闘を含め、今後の活動方針を満場一致で可決しました。大会を代表して挨拶に立った大杉会長（貨物鉄産労）は、「先日、西日本グループ会社で感電死亡労災が起きた。自分の身近で重大な労災が起きていることを認識して頂き、安全最優先の作業をお願いしたい。JR貨物グループの経営状況は極めて厳しいが、2023年年末手当交渉、2024春闘が控えており、生活改善のためにも、ここにいる皆さんが先頭に立ち、意識を高めて取り組んでほしい」と述べられました。来賓には、JR連合住吉局長・JR連合石川局長にお越し頂き、住吉局長からはJR連合グループ全体の取り組み、石川局長からは2024問題を控え、物流政策（貨物鉄道モーダルシフト推進）にかかる取り組みについて述べて頂きました。質疑では、労働条件・政策課題・組織課題等が出され、執行部・JR連合より、現時点での考えを説明し、役員改選では、大杉会長が退任され、辻村事務局次長が新会長に任命され新執行部体制となり、最後に辻村新会長による団結ガンバローで会を終えました。

定期大会終了後、第10回安全デスクッションを行い、各単組から安全問題を抽出し、重大事故・重大労災が起きてから改善するのではなく、危険作業・危険箇所を早期に改善することをJR貨物会社に対し強く訴えていくこととしました。



石川局長



住吉局長



福本議長  
(関西地区本部)



山田副会長  
(南関東ロジ労組)